

# 虹の架橋

大はみんなのために、みんなはみんなのために。

## 今月の題字 伊藤征夫 (いお) さん

(大間々町上神梅)

7年前に大間々へ転居してきた元武蔵野音楽大学の先生。町の観光ガイドとして活躍し、大間々駅のトイレ掃除にも毎週参加。笑顔が素敵な人生の先輩です。

## 大間々六人衆を偲ぶ 孫兵衛辻子と長澤薬師

「大間々六人衆」とは、高草木対馬則嗣、長澤伊織、大塚城四郎、金子修理、須永逸平、佐藤太郎左衛門のことで、大間々を開いた「草分け六人衆」とも呼ばれています。古文書には「文禄二年（一五九三年）桐原の間々々、吹松野を開拓し大間々新田と称す」と記されています。四百年以上も昔に大間々を開いた六人衆のうちの子孫の方たちは今も大間々に住み、ご先祖様からの長い歴史を守り続けています。



大間々駅の南、木戸商店北側の路地は江戸時代の地図には「孫兵衛辻子(すし)」と記されています。辻子とは、中世近世の都市において、大路につきあたる小路の呼び方でした。孫兵衛とは、高津戸の村役・石原孫兵衛のことで、大間々六人衆と共に、大間々を開いた人です。孫兵衛



まま通りから見える長澤薬師

衛辻子は、桐生から川内、高津戸を通り、渡良瀬川を渡し舟で渡って大間々宿へ入る道でした。孫兵衛辻子のつきあたる草木家があり、中ほどには、長澤家があります。長澤家が四百年以上守り続けている「長澤薬師」は、「眼の薬師様」として知られ、半紙に『め』の字を書いてお堂に貼り付けると眼病が快癒するという言い伝えがあります。孫兵衛辻子と長澤薬師、町の歴史散歩を楽しんでみませんか。



小耳にはさんだ いい話 (文責・靖) 《196》

### 与える者は与えられる

「私が一番受けたいココロの授業・講演編」(比田井和孝・比田井美恵著・ごま書房新社)という本には「与える者は、与えられる」というサブタイトルが付いています。この本の中に、島根県益田市にあるMランド(益田ドライビングスクール)の話が紹介されています。Mランドは、全国でも有数の集客数を誇る、合宿制の自動車教習所です。この教習所では、車の運転だけでなく、挨拶の大切さを教えています。Mランドの入口には、「この国のルールはひとつ。それは挨拶。挨拶は自分を変える。世界が変わる」と書かれています。最初は挨拶ができない人も、2週間、免許を取る間に気持ちのいい挨拶ができるようになって帰って行くそうです。さらには、教習所のトイレの掃除や車の洗車も生徒たちが行っているそうです。Mランド会長の小河二郎さんは「この教習所に来た人に幸せになってほしい。免許を取った人の一番の不幸は、事故を

## 世界一小さな 定利屋 トイレ美術館

今年も、さくらもーるで大間々美術協会主催のチャリティ展が開かれました。売上の一部は福祉基金に寄付されるということで、今年は高橋孝さんの『早川貯水池』の絵を買いました。子ども達の頃、早川貯水池は、友達と毎日遊んだ場所。美しい湖面と背後に聳える赤城山の雄大な景色は故郷の原風景として心に刻まれています。高橋孝さんは日本美術家連盟の会員で、みどり市役所や大間々商工会館などにも百号を超える絵が飾られています。絵を通して高橋さんご夫妻とご縁が深められたことに感謝です。



高橋孝さん『早川貯水池』

## 靖ちゃん日記

11月15日(火)  
さくらもーるの従業員親睦旅行でデイズニランドへ行きました。朝7時にバスで大間々を出发。10時にデイズニランドに着いた。アスクの社員たちと一緒に一時以上並んで、スペースマウンテンに乗った。未来の宇宙空間を急速で疾走するジェットコースターに、年をとられて絶叫した。みんなとあそびながら食べてから別荘へ戻り、上野へ行き、国立博物館で「天然と親鸞展」を観た。八百年前の世界にタイムスリップし、心外観やかに食べた。時間があったので、西洋美術館で「ゴヤ展」も観た。「着衣のま」の妖艶な姿に見惚れてしまった。夕方6時にデイズニランドへ戻り、今度はビッグサンダーマウンテンに乗った。夜空を急速で駆け巡る絶叫マシンに我を忘れた。夜9時に出発バスの中でいい気分が寝てしまった。そこで「なごかけ」を一席、「ジェットコースター」をかける。帰りのバスの中と解く。そのココロは「うしろも急速」(休息)が「必要」です。

起こして命を落としたり、人の命を奪ってしまうこと。だから、卒業した人達にはとにかく安全運転をしてほしい。そのために一番大切なものは、コミュニケーション能力です」と言っています。コミュニケーション能力とは、単に言葉を交わす能力ではなく、周囲や相手の立場に立って考え、相手の気持ちを察して、運転ができるかどうかです。そして、その一番の基本が挨拶だと言っています。「卒業してからも安全運転をしてほしい。良い運転手になって、良い人生を送ってほしい」という小河さんの切なる願いが生徒たちに伝わり、

実践されているのだと思います。7年ほど前から、小さな縁がきっかけで、小河さんに虹の架橋を送らせていただいています。そして、小河さんからは、お心のこもったお便りをいただき、生きていく上で大切なことを学ばせていただいています。

この本の著者・比田井和孝さんと、先月の虹の架橋で紹介した中村文昭さんの講演会が12月24日、13時から、高崎の群馬音楽センターが開催されます。チケットは足利屋にもあります。



小春日や路地に寝そべる猫二匹

大間々には、レトロな雰囲気のある路地がたくさんあります。「河内屋木道」として生まれ変わった路地には土塀が連なり、古井戸があり、創業120年という歴史を持つ銭湯「千代の湯」の煙突からは、空を温めているような優しい煙がたなびいています。路地の主人公である猫たちが陽だまりで昼寝をしている姿を見ると、何かホッとします。気分になります。路地を歩く人が増えるのは嬉しいことですが、猫たちの邪魔にならないようにしたいですね。猫の屋敷は平和のシンボルです。

足利屋 アスク

虹の架橋検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

第197号は1月1日(日)発行予定です。

♡ やつちゃんの似顔絵提供：ひさかさん